

発達障害の診断・傾向のある 学生の対応方法

2019/08/29 (木) SPODフォーラム プログラム2902D
筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

准教授 佐々木 銀河

【ホームページ】 <http://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>

【facebook】 <https://www.facebook.com/UTsukubaosd>

【Twitter】 <https://twitter.com/UTsukubaosd>

【E-mail】 sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp

 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

自己紹介

資格等

- 博士（障害科学），臨床発達心理士，保育士

経歴

- 2016年10月に筑波大学大学院人間総合科学研究科障害科学専攻 博士後期課程 修了
- 現在は、筑波大学DACセンターで障害学生支援に関する実務責任者（ディレクター）
- 特に、筑波大学に在籍する発達障害の診断または傾向のある学生への相談・支援のほか、研究活動を行う

研究・実践テーマ

- 児童福祉施設職員に対する組織行動マネジメント
- 知的・発達障害のある人を支える支援技術の開発・実装
- 発達障害の診断または傾向のある大学生の修学支援

 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

ワークショップの流れ

13時00分～14時00分【1時間】

- 発達障害の基本的な定義・概念の説明
- 障害者差別解消法と合理的配慮
- 筑波大学における支援プロセスの紹介
- 合理的配慮検討グループワーク

14時00分～15時00分【1時間】

- ニーズ別の支援・配慮例
- 仮想事例への対応方法検討グループワーク

 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

障害って？



視覚障害



聴覚障害



運動障害

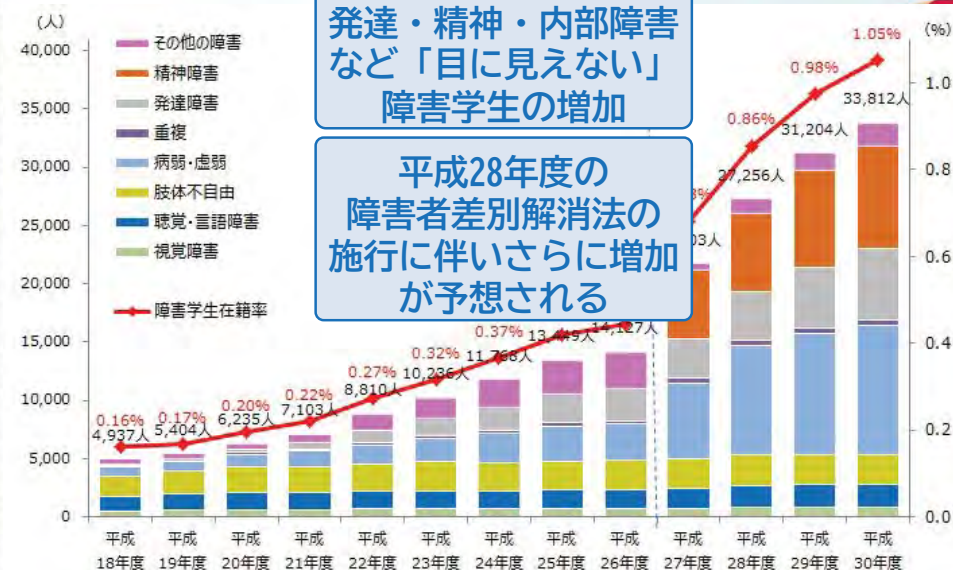


“目に見えない”
障害

発達・精神障害

 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

全国の障害学生の在籍状況



筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities.

JASSO (2019)

発達障害とは？

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder : ASD)

- 対人コミュニケーションの困難 (相手の気持ちの理解が苦手など)
- 興味・関心の偏り (予定外の出来事への対応が苦手など)

注意欠如・多動症 (Attention Deficit Hyperactivity Disorder : ADHD)

- 不注意 (物忘れが多い、複数の作業ができないなど)
- 多動性 (じっとしてられないなど)
- 衝動性 (考える前に突発的に行動するなど)

限局性学習症 (Specific Learning Disorder : SLD)

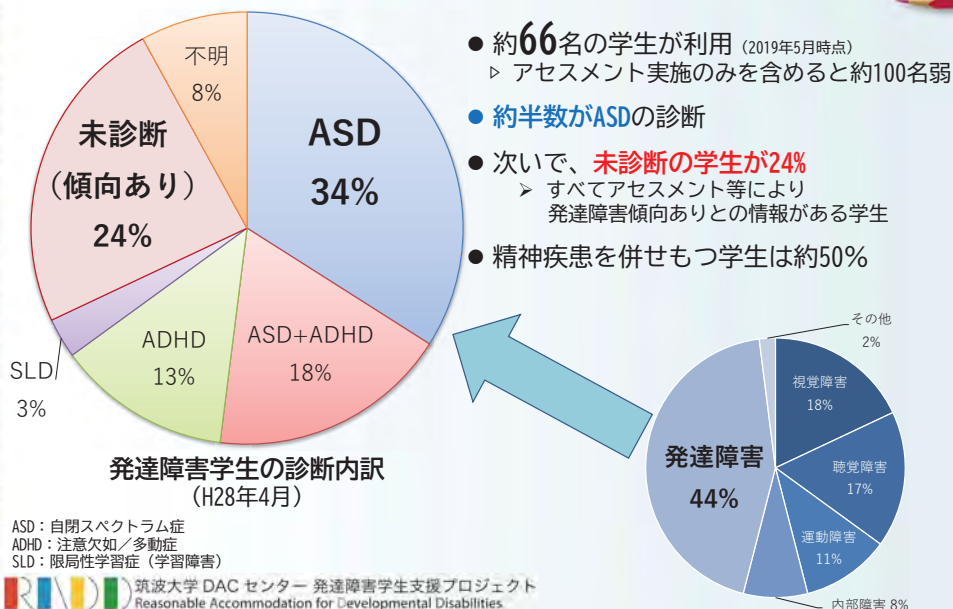
- 読みの困難 (文章のどこを読んでいるのか分からなくなるなど)
- 書きの困難 (板書を書き写すのに時間がかかるなど)
- 算数・推論の困難 (基本的な数字や記号、図表が読み取れないなど)

生来的な中枢神経系の障害

- 生まれつき脳内のネットワークにおいて特定の情報のやりとりが上手くいかないため、物の捉え方や感じ方が他者と異なる
- 外見上からは判断しにくく、個人差が大きい
- 「性格」の問題と誤解されやすいが、本質的な特性は変わらない

筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities.

DACセンターを利用する発達障害の診断または傾向のある学生の割合



大人の発達障害の診断



医師
(精神科など)

根拠となる資料

- ・ 知能検査、心理検査
 - ・ 生育歴の聞き取り
 - ・ 行動観察情報
- などをもとに、

診断基準に合致するか、
総合的に判断する

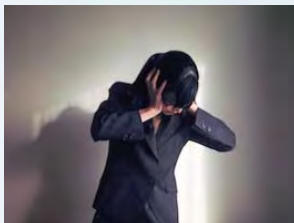
明確な診断名が
出ない場合もある
(グレーゾーン)

筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities.

発達障害と二次障害（精神疾患）

発達障害の特性⇒生き辛さを感じることも

- 不安が高まる（不安障害）
- 気分の浮き沈みが激しくなる（双極性障害）
- 気分が常に落ち込む（うつ）
- 孤立
- ひきこもり
- 依存症（アルコール、ネット）
- フラッシュバック



大学生等の成人の場合は
過去の失敗経験等により
二次的な疾患の併存率が高い

発達障害と大学教育における修学困難の関係

精神面の不良を理由とする休学・退学率

（全国保健管理施設協議会調査）

そのうち、発達障害を理由とする割合

	平成20年度調査	平成25年度調査
休学	1.4%	6.9 %
退学	1.8%	10.1 %

現在の大学教育路線になじまない学生や
ついていけない学生が
多数存在すると想定される（布施ら、2015）

障害者差別解消法とは？

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律

- 平成28年4月1日より施行
- http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/law_h25-65.html



1. 障害者に対する不当な差別的取扱いの禁止

- ”障害を理由に” 入学や授業受講を拒否する
- ”障害を理由に” 実験・実習への参加を拒否する、
- ”障害を理由に” 拒まないが正当な理由のない条件を付す など
- 正当な理由がある場合は差別的取扱いとならない
- 国公立大学も私立大学も法的義務

2. 合理的配慮の提供の義務化

- 国公立大学は法的義務、私立大学は努力義務

合理的配慮とは？

本人からの「意思の表明」があり、「負担が過重でないとき」は合理的配慮を提供しなければならない

障害者から「●●をしてほしい」という意思表示がある
※本人単独での意思表示が困難な場合には保護者や支援者の援助を受けれるようにする

大学に過重な負担がなければ必要かつ合理的な配慮を提供する



教育の目的・
内容・機能を
損なうか否か？

- ・合理的配慮 = 公平な参加の機会を与えるための変更および調整
- ・合理的配慮の選択は本人の意志に基づき、教職員が決めるものではない
- ・合理的配慮の提供は個々の学生の状況により多様かつ個別的
- すでに同種・同規模の大学で配慮している場合は、同様に配慮すべき

合理的配慮の提供が必要な学生

1. 心身の機能の障害がある者で

- 身体・知的・精神障害（発達障害含む）、その他の心身の機能の障害
- 障害の状況に関する根拠資料が必要（文部科学省，2017）
 - 障害者手帳の種別・等級・区分認定
 - 適切な医学的診断基準に基づいた診断書
 - 標準化された心理検査等の結果
 - 学内外の専門家の所見
 - 高校、特別支援学校からの引き継ぎ資料 など



2. かつ、社会的障壁がある

- 「日常生活を営む上で障壁となるような社会における事物、制度、慣行、観念その他一切のもの」
 - 【慣行】従来通りの学生への指示・説明・伝達
 - 【観念】”1人だけ特別扱いはいけない”、”不公平になる”

発達障害学生の合理的配慮の例

本学の留意事項より抜粋

- 間接的な表現が伝わりにくい場合、5W1Hを明確にした、より直接的な表現を使って説明する
- 多数の学生が不規則に発言をするディスカッション等の場で（中略）、挙手をして順番に発言をする、発言内容を板書する等の参加しやすくするためのルールを設けること
- 入学試験や定期試験において個々の学生の障害特性に応じて、試験時間の延長や別室受験、支援機器の利用を認める
- 教育実習、病棟実習等の実習授業において通常よりも詳しいマニュアルを提供すること
- 教育実習、病棟実習等の実習授業において、事前に実習施設の見学を行うこと
- 授業中、ノートを取ることが難しい学生に、担当教員の許可を得て、板書の写真撮影、PCによる筆記、ICレコーダー等による録音を認めること

教育の本質とは？

3つの方針(AP, CP, DP)の明確化

「教育の本質」
を可視化

- 大学等の選択に必要な情報を入学希望者等に提供
- 合理的配慮の提供において変更可能な点と変更できない点を明確化

例1：素早く回答できることを評価することが本質 → 時間延長は×
例2：速さではなく回答の質を評価することが本質 → 時間延長は○

シラバスに授業の目標・内容・評価方法を明記

「授業内容」
を可視化

- 授業選択の手がかりになる
- 大学等からの支援が必要かを学生が事前に検討できる

教育の本質に関する明確化の例

教育の目的・内容・機能	具体的な能力水準	合理的配慮の例
良好なコミュニケーション力	ディスカッションや議論に参加できる	ディスカッションや議論におけるルールを明記する
	口頭による指示を正確に理解することができる	口頭指示のメモ、携帯端末による筆記を許可する
基本的な知識・技能の修得（読み書き・計算能力）	試案の計算を正確に遂行できる	試案の計算に計算機の使用を許可する
	専門用語を用いてレポートを書くことができる	レポートの書き方の例を参照できるようにする
実験手法の正確な遂行	実験器具を安全に操作して使うことができる	実験器具の使用手順をマニュアルにして示す

3つの方針やシラバス等を参考資料にして
「～ができる」まで具体化すると配慮内容も検討しやすい

教育的支援と合理的配慮の違い



学生本人の能力向上 (教育的支援)

- 学習・社会的スキル指導
 - ・時間管理
 - ・レポート、論文の作成
 - ・対人関係
- 進路・就職指導
- 健康管理・カウンセリング

教育環境の変更・調整 (合理的配慮)

- 教員の指示方法の変更・調整
 - 提供する資料内容の変更・調整
 - 受講方法の変更・調整
 - 支援機器の利用許可
 - 成績評価方法の変更・調整
- ※成績評価基準ではない

発達障害の診断または傾向のある学生への修学支援

平等(Equality)と公平(Equity)の違い

Equality



The assumption is that everyone benefits from the same supports. This is equal treatment.

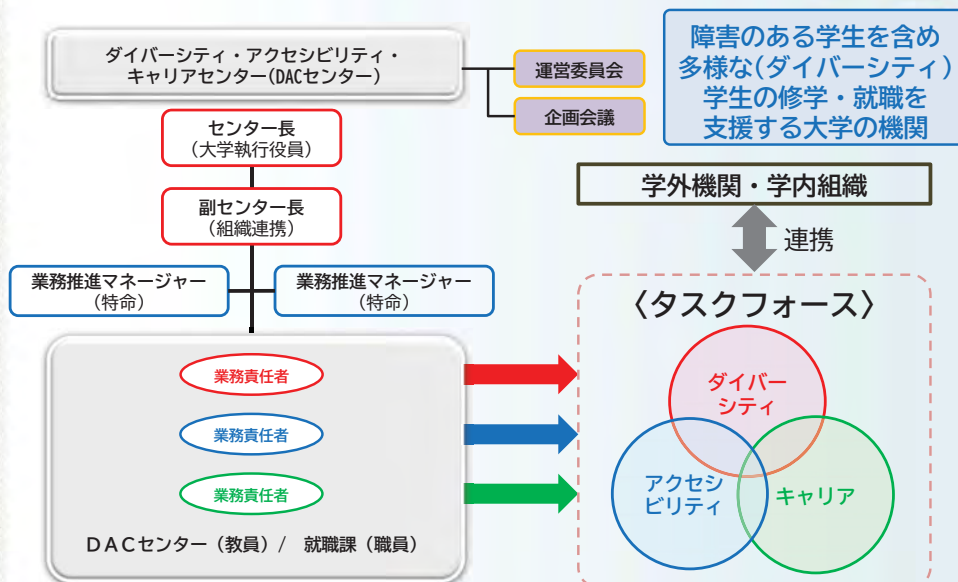
Equity



Everyone gets the supports they need (this is the concept of "affirmative action"), thus producing equity.

個人の機能の程度と環境（社会的障壁）との間にどのような問題（障害）があるかを考え、対処する

DACセンターの概要



発達障害学生支援 (RADD) プロジェクト



筑波大学 DAC センター
発達障害学生支援
プロジェクト

Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

さまざまな特性(カラー)をもった学生が豊かな
学生生活を送れるよう支援を充実させるプロジェクト

【ホームページ】 <http://radd.human.tsukuba.ac.jp/>



大学における合理的配慮と支援モデルの最適化に基づくニューロダイバーシティの実現

<2018～2021年度：日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (A) 【代表者：竹田 一則】>

多様な発達特性を有する学生への支援・社会参加を加速するための基盤的研究の実施

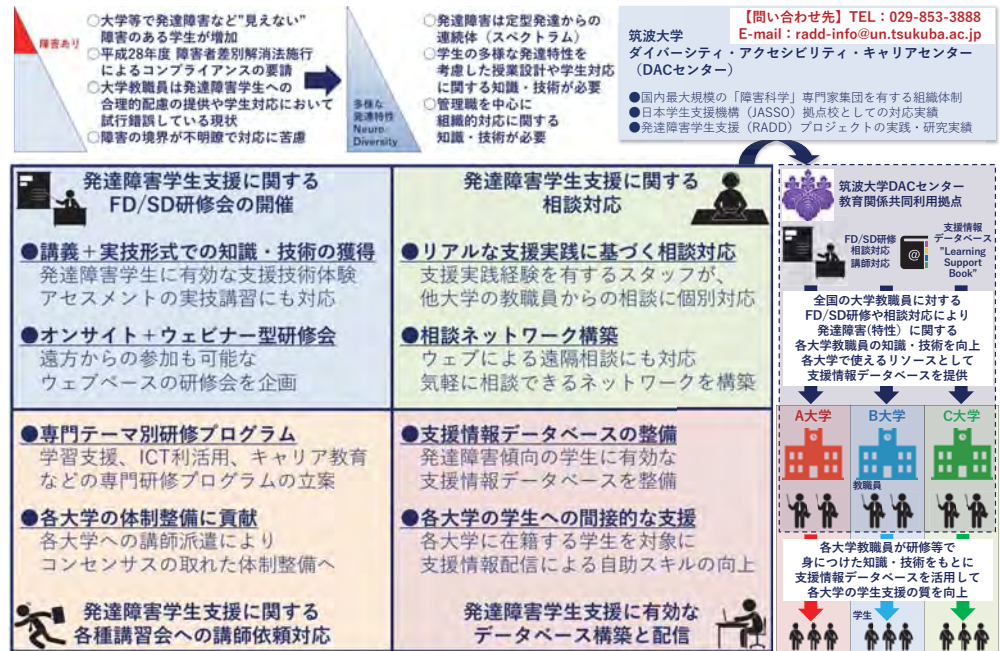
諸外国における「発達障害」から「脳の多様性（ニューロダイバーシティ）」へのパラダイムシフトに伴い日本の現状に最適化させたモデルを構築するための研究を学内外の研究者と協働して実施

発達障害学生支援に関するエビデンスの蓄積



筑波大学 ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター

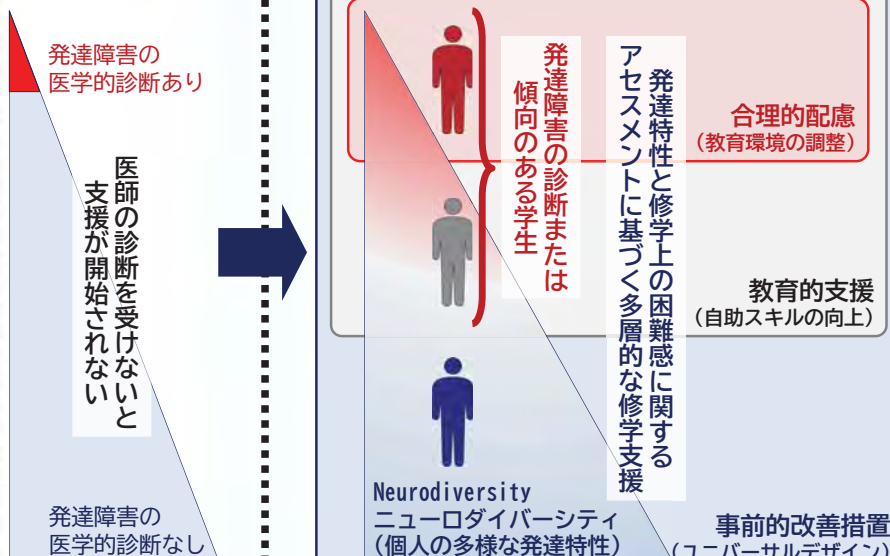
多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点【教育関係共同利用拠点H30～R2】



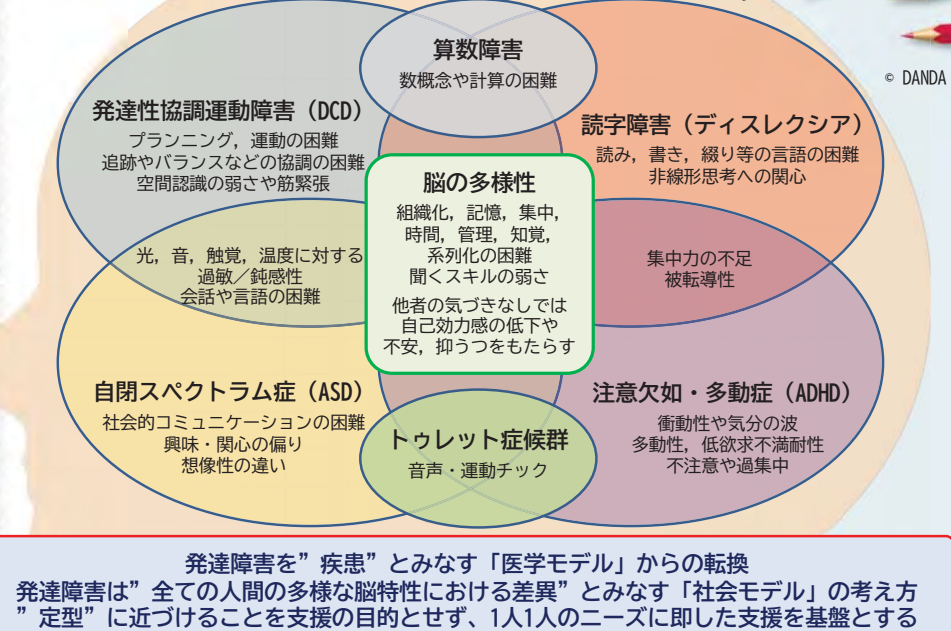
発達障害学生支援の基本的な考え方

医学モデル

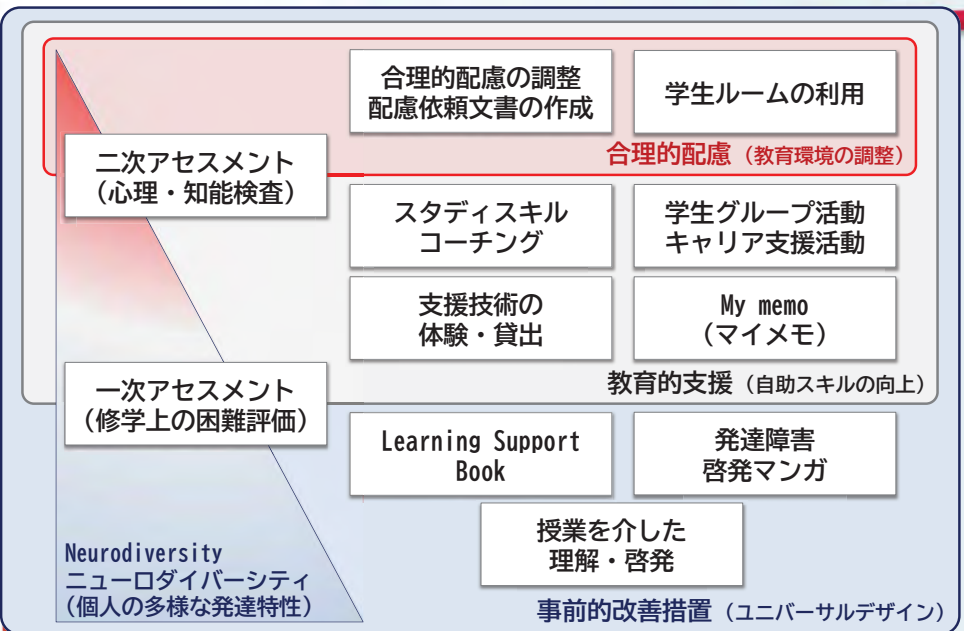
障害の社会モデルに基づく修学支援



ニューロダイバーシティ (neurodiversity)

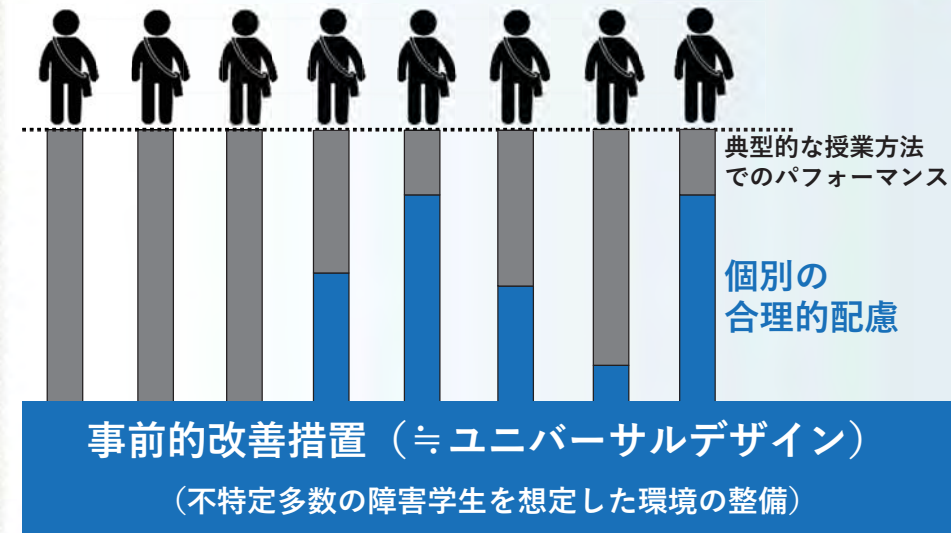


多様な発達特性を有する学生支援



障害の有無によらない環境づくり

公平に参加できる状態



RINDO 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

Learning Support Book (LSB)

RINDO Learning Support Book

カテゴリ

最新のLSB

登録の方へ

ノート・メモの取り方

試験対策・レポートの書き方

タスク・スケジュール管理

忘れ物を防ぐ方法

勉強のやる気・集中力アップ

学習と趣味・生活の両立

問い合わせフォーム

新着ブック

学外利用アカウント申請

OSD

忘れ物を防ぐ方法

レポートの書き方

集中力アップ

試験対策の対策

会員の方へ

【LSBの特徴】

- 発達障害のある方がもつ独自の視点や経験に関する情報を収集、学業や生活に役立つ情報を配信。特に発達障害学生に有効なハイテク・ローテク支援技術 (Assistive Technology) に関する情報を掲載
- “障害”ではなく“ニーズ”表記。「障害」のラベルを基本的に用いないデザイン。医学的診断に抵抗がある学生でもアクセスしやすい
- 大学生のサポーターが作成。学生目線での情報配信が可能

【URL】 <https://tsukuba-access.e-manager.jp/>
※他の高等教育機関 (大学・短大・専門学校) は、アカウント申請により閲覧可能 (試験運用中)

授業中のノートの取り方

支援アプリ編 ~スマートペン(Livescribe3)~

何が出来るの?

- ・デジタル内蔵型ボールペン。
- ・連携アプリ「Livescribe+」をインストールし、Bluetoothで接続したスマホやタブレットに筆記した内容や音声を送信できる。
- ・写真やテキストを追加できる。
- ・録音しながら筆記できる。再生時に書いていた部分がリンクする。
- ・iPhone、Android 対応。値段: 25,000 円程度。

実際にどう使ってるの?

- ・授業で重要点を再確認している時などに、メモを取りながら先生の話を聴く。
- ・復習するときは、アプリを開いてデータ化されたメモを読みながら、録音した音声を聞いてみる。
- ・メモし忘れた箇所があれば、アプリで打ち込んで情報を付け足し、テスト対策ノートを作成させる。

参考URL
公式 HP <http://www.livescribe.com/ja/smartpen/l3/features.html>

授業中のノートの取り方

支援アプリ編 ~MetaMoji Note~

何が出来るの?

- ・タッチペンやタブレット上に書きをするメモアプリ。
- ・無地や方眼紙、罫線を並び、ペンの太さや色を変えながらメモしていく。
- ・PDFの読み込みやメモの書き足し、書き込みの修正もできる。
- ・有料版は、録音しながら、聞きたい箇所を選んで再生も可能。
- ・iPhone、Android 対応。
- ・無料 (有料版は 800 円前後)。

実際にどう使ってるの?

- ・授業中の先生の話を聴きながら、重要だと思った時だけメモをする。
- ・授業が終わってから、録音した話を聞き直し、必要ならメモを修正してノートを整理する。
- ・PDF資料 (授業のレジュメや資料など) にマーカーを引いたりメモを直接書き込める。

参考URL
<http://product.metamoji.com/ja/anytime/function.html>

RINDO 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

他の大学等や地域社会への還元

筑波大学で作成したLearning Support Bookを
他の大学の教職員にも試験配信

2019年08月時点で全国 **73** 大学等で利用

つくば市との共同事業
「つくばSociety5.0社会実装トライアル支援事業」で
高校生や社会人向けにアレンジして試験利用も開始
高大連携など移行支援への利用可能性あり



RIND 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities



マンガを通じた理解・啓発活動

発達障害当事者の職員による広報活動

－ 障害に関するマンガを定期的にSNSへアップ



自校でできるユニバーサルデザイン

大学全体の教育環境整備

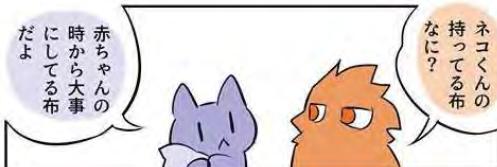
- － 物理的なバリアフリー化
- － 全学的な学習補助システムの導入
 - ・ 学習管理システム (LMS等)
 - ・ 音声認識システム (UDトーク等)
- － 全ての学生への基本的な学業スキル向上に関する支援
- － 啓発的な授業科目の設置 (例: 新入生オリエンテーション、キャリアデザイン)

個々の授業での伝え方の工夫 (学びのユニバーサルデザイン)

- － 口頭だけでなく、視覚的な資料を最初から使う
- － 5W1Hを明確にした全体指示をする
- － 重要なポイントの時にはトーンを変えたり、ちょっと間を置いて、学生が注目してから伝える
- － その場で聞きそびれても思い出せるように、配布資料など学生の手元に残るようにしておく

1人の障害学生にあると良いことで、他の学生にもあると良い場合
障害の有無に関わらず利用できるように最初から設計しておく

RIND 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities



多くの人に啓発するため、
発達障害啓発マンガは
CC0 1.0ライセンスを適用
発達障害啓発マンガは
自由に複製・印刷・
再配布・改変OK!

かわいくて
わかりやすい
マンガ



ぜひ見てください!

支援の意思表示の困難



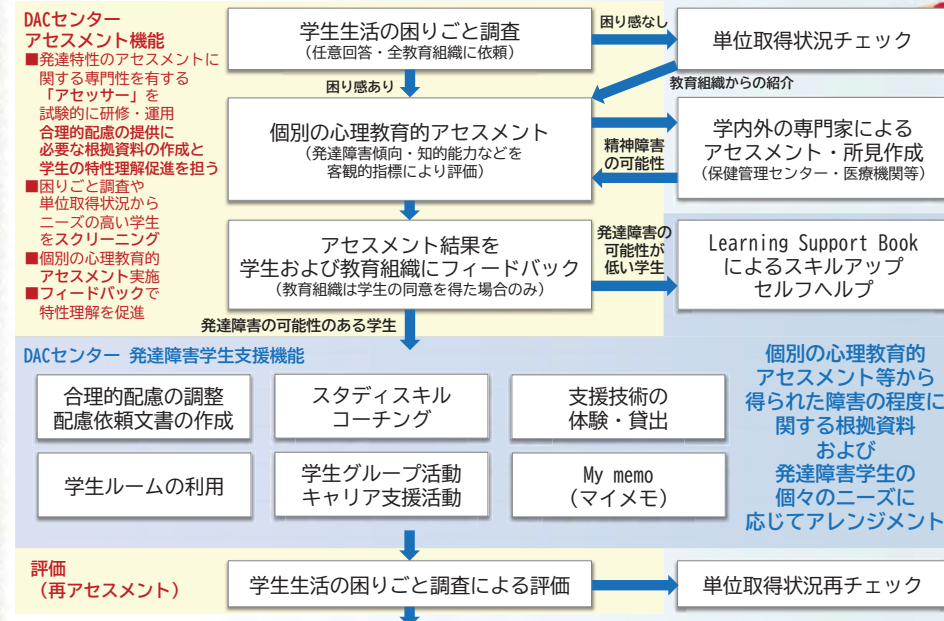
学生本人が
困らないと相談
に来ない

”障害”の
スティグマによる
医学的診断への抵抗

修学上の困り感を学生本人が
感じない、医学的診断に
抵抗がある場合は相談窓口
に自発的に来談することが困難
支援を受けられない

発達障害の医学的診断の
有無に関わらず
修学上の困難感に関する
「アセスメント」が重要

発達特性アセスメント／支援プロセス



自校でできる修学上の困難感評価

標準化された質問紙の活用

- 質問紙の限界を考慮する
- 合計得点も重要だが、下位尺度および特に得点が高い質問項目が何かを確認することも大切

単位取得状況・教育組織での状況確認

- 各学部学科・専攻により、必修科目等のキーとなる科目が存在
- シラバスや科目担当教員から情報を収集して、重点的にチェックすべき科目を知っておく
 - 実験、実習、演習、共通科目、月曜1限授業など
- 各学部学科や専攻の教員にも重点的にチェックすべき科目や確認事項を共有しておく
 - 必修科目未取得者、低単位取得者への個別面談
 - 個別面談時のチェックポイント (落とした理由、面談時の振る舞い)
 - 個別面談時における質問紙の活用 (困り感質問紙等)
 - 情報共有のルールと学生からの同意取得方法
- 担任等の学生と関わる機会の多い教員との連携は特に

専門部署 (学生相談室・障害学生支援室等) との連携

支援技術の体験・貸出



学生グループ活動

多様な発達特性のある学生同士が集まるグループ活動

- 自分のこと・他人のことを知る（自己理解・他者理解）
- 困った時の対処法や工夫をシェアする（対処法の発見）
- お互いに話せる人を見つける（友人・コミュニティづくり）

学生生活エンパワメントグループ

【内容】
学生生活で困っていること、悩んでいること、疑問に思うことを話し合う「工夫」や「解決策」を共有することで、学生それぞれの解決策の幅を広げる

みんなでもくもくと自分の作業をする会

【内容】
自分の作業（レポート課題、研究活動等）を自分のペースで進める会
会話は特になので、少人数での作業がはかどる方や1人だとやる気のしない方向け

発達障害当事者グループ

【内容】
自身の発達障害の特性について話し合ったり、障害に関する制度や仕組みを聞いたり、発達障害に関する書籍の読書会などを行う「発達障害」をよく知り、上手に使う

珈琲ミーティング

【内容】
生活リズムを整えるのが苦手な人向けに、朝からみんなでコーヒーや紅茶など好きな飲物を飲みながら「朝活」をする優雅な気持ちで30分間を過ごします

障害のある学生のキャリア支援

各種イベントの開催・機関との連携

- 「障害者手帳取得のメリット・デメリット」に関するグループ活動
 - ・ 基本的な知識を得る機会を用意
- 発達障害当事者によるキャリアセミナー
 - ・ 外部の発達障害当事者をお招きして、働く時に困ったことや対処法などを共有
- 発達障害の傾向がある学生向け就職活動準備講座
 - ・ 外部の就労移行支援機関の方をお招きして、「働くとは何か？」を考え、実際に職業体験をする2日間の講座を実施
- 障害学生と企業の交流会～Career×Disability～
 - ・ 障害学生の企画チームが主体となり、障害者雇用これから取り組む企業等と障害学生の交流
- 障害学生のOB・OGネットワーク
 - ・ 卒業・修了した障害学生のうち同意の得られた学生について、在学生が卒業後のことを相談できるネットワークの構築を開始
- 障害学生向け・企業向けキャリア支援ガイドの作成
 - ・ 在学する障害学生向けと障害学生の雇用を考えている企業向けのガイドを公開
- 外部の就労支援機関との連携
 - ・ 外部のインターンシップ・プログラムを紹介（例：ACE, IBM）
 - ・ 障害者就業・生活支援センターに依頼して、出前講座の実施や相談連携

RIND 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

障害のある学生のキャリア支援

発達障害キャリアセミナー



障害学生と企業の交流会



ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター、学生相談室連携 特別講座

就職活動準備講座2016

「働く」ってどういうこと？

発達障害があったり、コミュニケーションや人間関係に苦手さを持っている学生のみを対象とした、就職活動準備講座です。
同じ不安や悩みを抱える参加者の人たちが悩みを分かち合ったり、グループワークや仕事体験を実践に行ってみることで、仕事に活かせる自分の強みに気づくと同時に、在学中にどのような準備をしようか考えるための講座です。貴重な機会ですので、是非参加を検討して下さい。

＜こんな悩みや「壁」に悩む学生です！＞

- コミュニケーションに困り感を持っている
- 就労や社会で働くことができないかと不安
- 事務等の仕事をしたい・体験したい
- 働く上で大切なマナーやスキルを知りたい
- 一緒にがんばれる仲間がほしい
- 卒業までにどんな力をつけていこうか知りたい……etc.

就職活動準備講座

＜プログラム＞

日にち	時間	内容
事前面談(個別)		
1日目 2月20日 (月)	1コマ目 11時～12時	オリエンテーション/しゃべり場「働くって？」
	ランチタイム 12時～13時	休憩 ※ランチミーティング開催(自由参加)
2日目 2月27日 (月)	2コマ目 13時～15時	職場体験 ①
	1コマ目 10時30分～12時30分	職場体験 ②
2日目 2月27日 (月)	ランチタイム 12時30分～13時30分	休憩 ※ランチミーティング開催(自由参加)
	2コマ目 13時30分～14時30分	しゃべり場「自分に合った働き方って？」
事後面談(個別)		

スタディスキル・コーチング

学業スキルの向上を目指す個別面談

- タスク・スケジュール管理方法のアドバイス
 - ・ 履修計画の作成
 - ・ レポートや課題の締切管理
 - ・ 研究の進捗管理
- レポートや課題の作成方法に関するアドバイス
 - ・ アイデアのまとめ方
 - ・ 関連情報の集め方
- 学習方法・方略に関するアドバイス
 - ・ 専門用語の覚え方
 - ・ ノート・メモの取り方



アセスメントで分かった特性に基づくサポート

- 自身の得意・苦手に応じた方略の探索

RIND 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

My memo (マイメモ)

キャリア相談

DACセンター
(キャリアサポート)

修学相談

DACセンター
(アクセシビリティ)

心理相談

保健管理センター
(学生相談室)

パソコンやスマホ、タブレットから
自分の得意・苦手なことを記録して
情報を伝えたい他の人だけに共有する
WEBアプリケーション

「My memo (マイメモ)」を開発

自分の特徴をより良く理解して
他の人とのコミュニケーションに活かす補助ツール

マイメモの主な機能

筑波 学さん

自己管理促進ツールへようこそ！

気づいたことを登録

気づきの変化をチェック

気づきをまとめて相手に伝えよう

目標を決めて取り組む

気づいたこと登録

気づいたこと ⑦

例)聞きながら板書するのが苦手

アセスメントの結果や
教職員との面談
学生自身の気づきを
思いついた時に登録

一覧表にして
合理的配慮の提供や
エントリーシート作成に活用
言葉を気にする学生のため
「得意」を
「まあまあできること」
などラベル変更可能

得手

授業以外

細かいことによく気がつく

不得手

授業中

提出物の期限を守るのが苦手

3日前に確認をする癖をつける

聞きながら板書するのが苦手

講義を録音して後で聞きながら書く

RIND 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

佐々木ら (2018) 全国障害学生支援協議会第4回大会

高校、大学から就職まで使えるツール

高校・大学から就職活動までの情報をICTツール連携で一気通貫！

学校生活全般 (高校・大学)

就職活動中

生徒・学生

【my memo】
・学校生活を通じた
自己理解促進

システム
連携

【Boosterキャリア】
・記録の蓄積
・企業とのマッチング

支援者

学内支援者による支援

学外支援者による支援

支援の場、人を越えた本人中心の情報共有と引き継ぎ

合理的配慮の検討プロセス

申請

- ・本人からの支援申出 (来室、メール、電話等)
- ・対面での支援申し込み受付 (情報開示の範囲を確認)

協議

- ・DACセンタースタッフが本人より支援ニーズの聞き取り、希望支援方針を確認
- ・障害の状況を表す根拠資料の確認 (必要に応じて) 障害特性等のアセスメント

協議

- ・本人からの支援ニーズとDACセンターからの提案に基づき、
教育組織 (学類・専攻等) との協議 ※本人と教育組織の合意が得られるまで続く

合意

- ・ (必要に応じて) 配慮依頼文書の作成 → 可能であれば本人から教員へ手渡し

協議

- ・教育組織を中心に合理的配慮の提供
- ・DACセンターでは (必要に応じて) 個別面談の継続、他機関との連絡調整

建設的対話により決定

RIND 筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

株式会社エンカレッジとの共同研究

配慮依頼文書に盛り込む事項

機能障害・活動制約の記述

- － 一般教職員でも分かるような表現で書く
 - ・ 診断名だけではなく、活動制約も記述する
- － 何を根拠にして判断しているかを記述する
 - ・ 障害者手帳の種別・等級、適切な医学的診断基準に基づいた診断書
 - ・ 標準化された心理検査の結果
 - ・ 学内外の専門家の所見、高校等からの引き継ぎ資料

配慮内容

- － 活動制約と配慮内容の関係性を記述する
 - ・ 「口頭での説明を記憶することが困難なので、授業の資料配布をお願いします」

個人情報の取扱い

- － 障害に関する事項は「要配慮個人情報」
- － “取扱注意” はもちろんのこと、教職員内での共有範囲、他の学生から問い合わせを受けた場合の対応などを記述する

支援の選択肢の拡大

支援ニーズ（修学上の困難）の整理

1. ノート・メモを取ることの困難
2. 試験上の困難
3. レポート作成上の困難
4. タスク・スケジュール管理の困難
5. 忘れ物への対応の困難
6. モチベーション・集中力維持の困難
7. 会話・コミュニケーション上の困難
8. その他の支援ニーズ

まとめ

発達障害学生支援のポイント

- － 発達障害に関する定義や概念の理解
- － 障害者差別解消法の理解・共有
- － 社会モデルとしての障害の捉え方
- － 定型発達学生から発達障害学生までの連続した組織的対応
- － 学びのユニバーサルデザイン化
- － 自校での合理的配慮検討プロセスの明確化
- － 学生に提示できる支援の選択肢の拡大
- － 1人1人の学生のニーズが異なることを知る